

群 教 セ	G01 - 04
	令元. 272 集
	国語一高

高校国語科において、文章構成・表現を主体的に工夫できる生徒の育成

—既習の単元を踏まえた動画作成を通して—

特別研修員 塚越 洋平

I 研究テーマ設定の理由

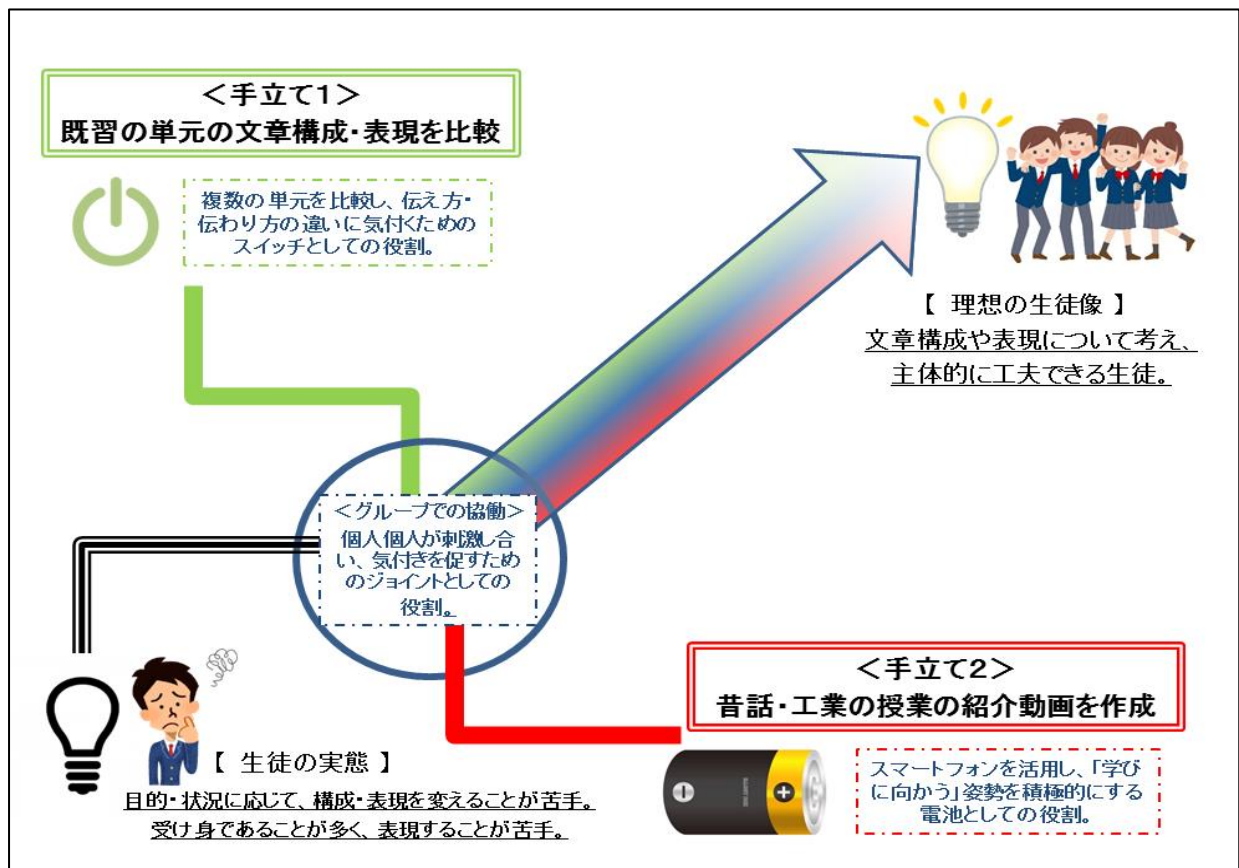
現行の高等学校学習指導要領解説・国語編「第3節 現代文A」の目標に「近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって読書に親しみ、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる」とある。また、新学習指導要領の「第2 言語文化」には、「我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う」とある。

研究協力校（以下、協力校）の生徒は、工業の授業において毎週レポートを提出しており、国語以外でも文章作成を行っている。しかし、その活動は受け身のことが多く、積極的に表現する姿勢にまでは至っていない。この要因としては、毎週のレポート提出に追われ、自ら文章構成や表現について深く思考する状況にないことが挙げられる。したがって、これを改善するために、既習の単元（評論・小説）を読み比べて、それぞれの文章構成や表現、それに伴う伝わり方の違いに気付かせ、状況によって使い分けられるようにすることが必要である。さらに、それらを踏まえた上で、昔話・工業の授業の紹介動画を作成させることで、積極的に表現する姿勢を身に付けさせたい。

以上の活動を通じて、文章構成や表現について考え、主体的に工夫できるようにするとともに、言葉を通して他者と関わるきっかけをつかませたいと思い、上記のテーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

手立て1 既習の単元（評論・小説）を読み比べ、文章構成や表現の工夫に気付かせる。

既に学習した単元を再度読み直し、比べさせる。それにより、短時間で文章構成や表現の違いに気付くことができる。また、グループで取り組ませることで、個人では発見できなかった部分にも関心が向くようにしていく。

手立て2 国語の既習の単元を活用して、昔話や工業の授業の紹介動画を作成し、文章構成や表現を自身でも工夫できる力を身に付けさせる。

既習教材の文章構成や表現を活用して、なじみ深い昔話や工業の授業の紹介動画を作成させる。その際に、「絵コンテ」によって構成・表現をイメージ化させるとともに、スマートフォンを活用させることで、学びに向かう姿勢がより積極的になるよう指導していく。この学習もグループで行うことで、互いの刺激を促し、発想の幅を広げることができたり、様々な役割を経験させることで多面的に学ぶことができたりする。完成した紹介動画については、発表会を行い、さらに動画を修正する学習を行うことで、自己の作品を見直し、推敲する力を育成する。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- スマートフォンを用いた「動画」というテキストは、生徒の学びに向かう姿勢に対して効果的に作用すると言える。「課題研究」を紹介させたため、学習課題である文章構成・表現を見失いがちであったが、教師からの軌道修正を頼りにしながら、最終的には文章構成・表現を理解していった。また、グループで活動する際にも様々な意見を交流させ、よりよい動画を作成しようという姿勢が見られた。発表会で他グループの動画を視聴、評価する際にも、興味を示しながら積極的に視聴しようという姿があった。

さらに、スマートフォンを活用することは、学習効果も非常に高くなると言える。文章だけにとどまらず、写真やイラストなどを視覚的に受け取ることで、生徒の理解は深まっていった。

- 紹介動画を作成する学習後の生徒の振り返りシートから、以下のことが分かる。「構成・表現を意識できるようになった」と回答している生徒は、全体40人中26人であった。さらに、「今後、読書やテレビ番組を見る際に構成を意識してみたい」という声も10人ほど見られた。また、「一度できあがった作品を改善することが大切だと思う」「推敲の必要性を実感できた」と回答した生徒もおり、自己の構成・表現を改善するためには、相手側の視点を考えることや完成した作品を再度見直すことの必要性を実感しているようであった。

2 課題

- 動画を視聴した際に「なぜ、その表現を使うのか」が明確になっていないものが多数見られた。比較という表現は、結論に関わる形で例を挙げなければいけない。しかし、結論に関係のない部分でただ比較がなされており、生徒はその問題点に気付いていないケースが見られた。生徒がこの問題点に気付くには、「その表現を選んだ理由を分かりやすくする」「どういうときにその表現を使うのかを全体で確認する」といった学習活動等を設定する必要がある。
- 教科等横断的な視点を意識して、工業の授業の紹介動画を作成する学習を設定した。そこでの問題点としては、どうしても「課題研究」の内容の部分にとらわれ、構成・表現の学習だということを忘れがちだということである。しかし、目標を毎時間提示することによって、生徒は徐々に構成・表現を意識していった。国語と他教科等の連携すなわち、教科等横断的な取組の必要性も強調されており、このような取組を日常的にしていくことが今後の課題と言える。

実践例

1 単元（題材）名 「工業の授業の紹介動画を作成する」（第3学年・2学期）

2 本単元（題材）について

既習の単元を読み比べ、その文章構成・表現を基にして、工業の授業の紹介動画を作成させる。グループごとに選択した教材の構成（頭括型、起承転結など）、表現（比較、具体例など）を用いた動画を作成することで、文章構成・表現への理解を深めさせる。また、内容を分かりやすく説明するためのテロップや音声を挿入させる。

今回の実践で作成した動画は、協力校への入学を希望している中学生が視聴できる機会を作り、学校を理解する手助けとなるようにする。さらには、文章構成・表現と動画を関連させたことで、群馬県の紹介動画のコンテスト等への応募にもつながっていくと考えられる。

以上のことから、本単元では以下のような指導計画を構想し、実践した。

目標	工業の授業の紹介動画を作成することで、文章構成・表現への理解を深める。	
評価 規 準	関心・意欲・態度	・周囲との対話の中で、文章構成・表現の工夫を捉えようとしている。 ・文章構成・表現の工夫を意識しながら、動画を作成しようとしている。 (観察で評価)
	書く能力	・文章構成・表現を理解した上で、自己の作品の構成・表現を工夫している。 (作成した「動画」で評価)
	知識・理解	・構成のパターンや表現の工夫によって、読み手（聞き手）への伝わり方が違うことを理解している。(振り返りシートで評価)
過程	時間	主な学習活動
課題 把握	第1時	・文章構成のパターン、表現の種類を振り返る。 ・既習の単元を読み比べて、文章構成・表現の工夫を見極める。
	第2時	・工業の授業の紹介動画の構成・表現を考える。 ・「絵コンテ」に内容、時間、テロップ、音声等をメモする。
課題 追究	第3・4時	・グループで動画の構想・編集を行う。(同時に「絵コンテ」を完成させる。)
まとめ	第5時	・構成・表現を明確にして発表を行う。 ・他グループの発表を評価する。
	第6時	・構成・表現を明確にして発表を行う。 ・他グループの発表を評価し、意見交換を行う。その内容を踏まえて修正を行う。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は、全6時間計画の第6時に当たる。生徒は、文章構成・表現を意識しながら、工業の授業の紹介動画を作成している。第2～4時で、構想メモにある「絵コンテ」を生かしながら、スマートフォンを用いて動画の編集作業を行った。第5時では発表会を行い、それを踏まえた本時では、改善点のある動画について「絵コンテ」の修正を行う。一つのグループの動画を全員で視聴し、改善案を考えることにより、グループごとの考え方の違いや受け取り方の差を実感することができると考えた。また、修正する際には、内容の訂正にとどまることなく、構成や表現に着目することを促し、説明の仕方や順序によって相手の理解度に変化が生まれることに気付かせることができると考えた。

最終的な振り返りの前に、修正案が書かれた「絵コンテ」については該当のグループに戻し、そのグループの生徒の振り返りに生かせるようにしていく。

4 授業の実際

(1) 導入

本時の課題【他グループの紹介動画を視聴し、①評価を行う。②改善点のある動画に対して、「絵コンテ」を修正する】を確認した後、二つのグループの動画を視聴した。視聴の流れは、以下のとおりである。

<視聴の流れ>

① 視聴（1分30秒～2分）

生徒が作成した動画を教師のタブレットに保存し、プロジェクタで投影して視聴した。画像や音楽ではなく、構成・表現に着目するよう指示した。

② 構成と表現の判別（1分）

視聴後、構成・表現の例（尾括型、起承転結・比較、具体例など）が示されている一覧表を見ながら、どういった構成や表現が用いられていたかをワークシートに記入するよう指示した。

③ 作成者からの説明（30秒）

代表者に、自分たちが用いた構成・表現は何だったかを発表させた。その際には、どのような部分を工夫したかについても補足説明させた。

④ 検証・感想記入（1分）

「作成者からの説明」を踏まえて、自己の判別が合っていたか、視聴してみたの感想等をワークシートに記入させた。

(2) 展開

前時と合わせて全ての動画が見終わったため、課題の二つ目である「絵コンテの修正」の学習活動に移った。前時に視聴した一つの動画を改めて見直し、自己の感想を振り返るとともに改善点も考えさせた。数人を指名して気付いた点を発表させ、全体で共有した後、教師からグループ協議におけるポイントを説明した。内容の改善にとどまらず、構成・表現をどのように活用すれば、中学生に対して効果的に伝えられるかを考えるよう促した。場合によっては、用いる構成・表現を変更することも可であることを確認した。その後、四人組のグループとなり、配布された「絵コンテ」に色ペンで修正点を書き込ませた（6 資料参照）。机間支援をしつつ、より分かりやすく修正ができるようアドバイスを行った。10分ほどの協議を行い、三つのグループに自分たちの修正案を発表させた（図1）。発表の際には、各グループの「絵コンテ」をタブレットで撮影し、スクリーンに投影して教員側で随時拡大なども行った。発表については、細かな指導は行っていなかったが、発表者は、自己の考えを明確にできており、聞き手も真剣に聞いていた。スクリーンに拡大して投影したことも効果的であったと言える。

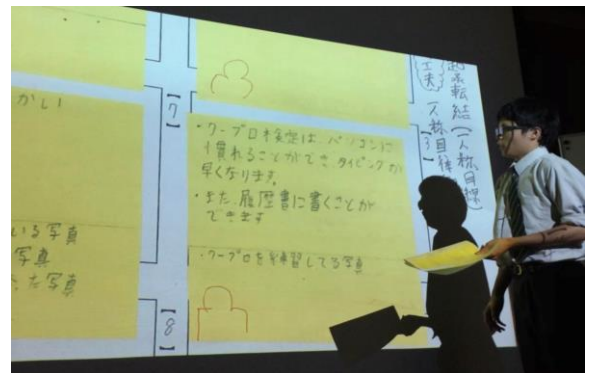


図1 修正案を発表している様子

(3) 振り返り

本単元で学習した内容についてワークシートを用い、個人での振り返りを行った。「一、学習をしてみたの感想」「二、気づき・学び」「三、学習した上での課題」「四、これからどういうことをすべきか」という観点で記述をさせた（次ページ図2）。

最終的に、教師から「テキストごとに分かりやすい構成がある」ということを確認した。教科書の教材の多くは尾括型、スピーチであれば頭括型、小論文であれば双括型という内容は、生徒も実感しているようであった。「動画についてはどうか」と投げかけたところ、「双括型が分かりやすい」という声と「起承転結が分かりやすい」といった声が挙がった。

<p>五、自己採点</p> <p style="text-align: center;">80 点</p>	<p>四、これからどういうことをすべきか。</p> <p>これから教科書等の文章を読むときに、構成や表現の工夫は何か考えることをより意識する。そうすれば何か見えてくるものがあると思う。</p>	<p>三、学習した上での課題</p> <p>動画の構成を練るまでに時間が掛かった。</p>	<p>二、気づき・学び</p> <p>この授業をしているときに映画を観たのだが、以前より映画の構成や表現を意識して鑑賞することができたと思う。</p>	<p>● 自己の活動を振り返る！</p> <p>一、学習をしてみての感想</p> <p>動画を作る上で観る側の目線を意識して作るのが大変だった。 自分たちの動画が観る側にとって分かりやすいものだったかは分からない。</p>
---	--	---	---	---

図2 振り返りのワークシート

5 考察

「工業の授業の紹介動画を作成する」という学習において、「課題研究」を紹介させたが、いかに紹介しようかという点で生徒は悩んでいた。そのため、国語の学習課題である構成・表現を忘れがちになり、その度に軌道修正することが必要であった。しかし、スマートフォンを活用した「動画」をテキストとした学習は、生徒の意欲を引き出し、モチベーション高く活動することにつながった。発表会についても、他グループの動画を見る目は非常に意欲的であり、学びに向かう姿勢が高かったと判断できる（図3）。さらに、他グループの構成を見極めようとする姿勢や、自分たちの表現を更に工夫したいという意欲が見られた。

以上のことから、今回のねらいである「動画を通して文章構成・表現への理解を深める」ための取組は成功していると言える。

また、グループで協議する活動やタブレットについても効果的に作用したと言える。なぜなら、以下のような点が挙げられるからである。グループで協議する活動では、動画の構想や修正案の協議などの多くの場面で意見交流が活発であり、自発的に学ぶ姿勢が見られた。タブレットを用いた指導としては、生徒の修正案を写真で撮り、スクリーンに投影した。さらに、発表に合わせて拡大することにより、見ている生徒たちは非常に理解がしやすかったと言える。



図3 動画を視聴している様子

課題としては、修正案については客観的に評価する機会がないため、言ったもの勝ちになるリスクがあることや、「反復」「回想」「伏線」などの生徒が使えなかった表現を用いた例を示せなかったことが挙げられる。客観的な評価がないことについては、今回はあえて正解を決めずに様々な発想を出させ、それに触れることで生徒の理解は深まったので、研究のねらいには外れていないと言える。生徒が使えなかった表現の例については、それを用いた動画を示せるとよい。そのため、他クラスの動画で効果的なものがあれば使ったり、今回の動画を次回に活用できるよう整理しておいたりする必要がある。また、最終的に「実際に文章を書く指導」に戻るべきという指摘もあった。このことに関しては、今回は「動画」というテキストを用いたため、今後はスモールステップを意識しつつ、実際の文章を書く指導につなげていく必要があると言える。

● 二分間の紹介動画のための『絵コンテ』

【ミニ四駆について（1）】 ⑤
 続いて私たちの課題研究の班では、ミニ四駆について研究しました。

作り方などの説明をもっと詳しく。

【資格について（1）】 ①
 私たちの学校ではたくさんの資格を取得でき、他の高校と違い進路に有利にできます。

ここが「比較」だと思った。

【ミニ四駆について（2）】 ⑥
ミニ四駆とは、〇〇〇が発売している小型の動力付き自動車型模型である。
 （Web ページから引用）

【資格について（2）】 ②
 私たちが挑戦した資格はワープロの検定です。

もっと説明を多く。

ここが「比較」なのか！？
 だとすれば、二つのミニ四駆の調整の違いなどを説明すべき。

【作成したミニ四駆の紹介】 ⑦
 ・ミニ四駆を作っている写真
 ・改造作業をしている写真
 ・二台の走行シーンの動画（比較）

【ワープロ検定の練習】 ③
 ワープロ検定に取り組むと、パソコンに慣れ、タイピングが早くなります。また、履歴書の資格欄に書くことができます。
 ・ワープロを練習している写真

○ 吹き出しの中には、他グループの生徒が書き足した指摘・修正点

【まとめ】 ⑧
 さまざまな資格に挑戦し、ミニ四駆を完成させた後も、新たな課題を考えて取り組みたいと思います。

【ワープロ検定の賞状】 ④
 実際に取得した時にもらえる賞状がこちらです。
 ・ワープロ検定の賞状の写真

「結論」なのか？